

Crash Reporting Systemダウンロード リ ファレンス

目次

1 はじめに.....	3
サポートされているプラットフォーム.....	3
2 インストールと環境設定	4
CRSダウンローダを構成する	4
インターネット設定を構成する	5
3 CRSダウンローダの操作.....	6
Crash Reporting SystemのデータをProDGデバッガで分析するには	6
付録A：動作の詳細	9
付録B：ヒントやテクニック	10

1 はじめに

Crash Reporting System ダウンローダ（CRS ダウンローダ）は、Crash Reporting System（CRS）からのコアファイルや関連するすべてのシンボルファイルのダウンロード、それらのファイルの圧縮解除、SN Systems ProDG デバッガによるシンボルレベルデバッグの開始を、ワンクリックで自動的に行えるようにするためのアプリケーションです。

サポートされているプラットフォーム

CRS ダウンローダでサポートされているプラットフォームは、次のとおりです。

- 32 ビットおよび 64 ビットの Windows XP
- 32 ビットおよび 64 ビットの Windows 7

どちらのオペレーティングシステムの場合も、最新のサービスパックとアップデートが必要となります。CRS ダウンローダは次のデバッガと統合されています。

- ProDG for PlayStation 3 430 以降
- Debugger for PlayStation Vita 1.80 以降

2 インストールと環境設定

システムに CRS ダウンローダをインストールするには、SDK Manager を使用します。
デフォルトのインストールパスは次のとおりです。

C:\Program Files\SCE\Common\CRS Downloader\bin

インストーラによって、ファイル拡張子の .crsdim が CRS ダウンローダプログラムに関連付けられます。
システムに .crsdim ファイルがダウンロードされるたびにファイルが開かれるようにブラウザが設定されているか確認してください。

CRSダウンロードを構成する

CRS ダウンローダを初めて実行した際に、デフォルトの構成パラメータを含んだ XML 構成ファイルが次のように %USERPROFILE%\SCE\CRS Downloader ディレクトリ内に作成されます。

例：C:\Users\<user>\Documents\SCE\CRS Downloader\CRS Downloader.config

この構成パラメータを変更するには、生成された CRS Downloader.config ファイルを編集します。デフォルトの構成に戻すには、CRS Downloader.config ファイルを削除します。CRS ダウンローダの次回起動時に、デフォルトの CRS Downloader.config ファイルが %LOCALAPPDATA%\SCE\CRS Downloader 内に作成し直されます。

CRS Downloader.config の構成可能なパラメータを以下に示します（属性は XPath を使って特定します）。

- //LocalCache/@RootDir：ローカルキャッシュのルートディレクトリ

デフォルト：%LOCALAPPDATA%\SCE\crsd\Cache

例：C:\Users\<user>\AppData\Local\SCE\crsd\Cache

- //LocalCache/@MaxSizeMB：最大ローカルキャッシュサイズ（メガバイト）

デフォルト：16384（16 GB）

- //Log/@Path：ログファイルへのパス

デフォルト：%LOCALAPPDATA%\SCE\crsd\CRS Downloader.log.txt

例：C:\Users\<user>\AppData\Local\SCE\crsd\CRS Downloader.log.txt

- //Log/@Severity：ログファイルに格納するメッセージのレベル。構成された値と等しいかそれより低い重要度のメッセージがすべて、CSRM によってフィルタリングされます。たとえば Severity=20 の場合、ログに格納されるのは、クリティカルメッセージとエラーメッセージだけです。

0	なし
10	クリティカル
20	エラー
30	警告
40	情報
50	デバッグ
60	キャッシュダンプ
70	すべて

デフォルト：40

- //OpenCommand：デバッグを最初に起動する際に使用するコマンド

- //@NewInstanceCommand : デバッガの新しいインスタンスを起動する際に使用するコマンド
- //Downloader/@MaxCount : 最大同時接続数

デフォルト : 10

インターネット設定を構成する

接続設定やプロキシ設定など、インターネットオプションを構成しなければならないことがあります。

インターネットオプションを構成するには

- コントロールパネルで「ネットワークとインターネット」をクリックした後、「インターネット オプション」をクリックします。

あるいは

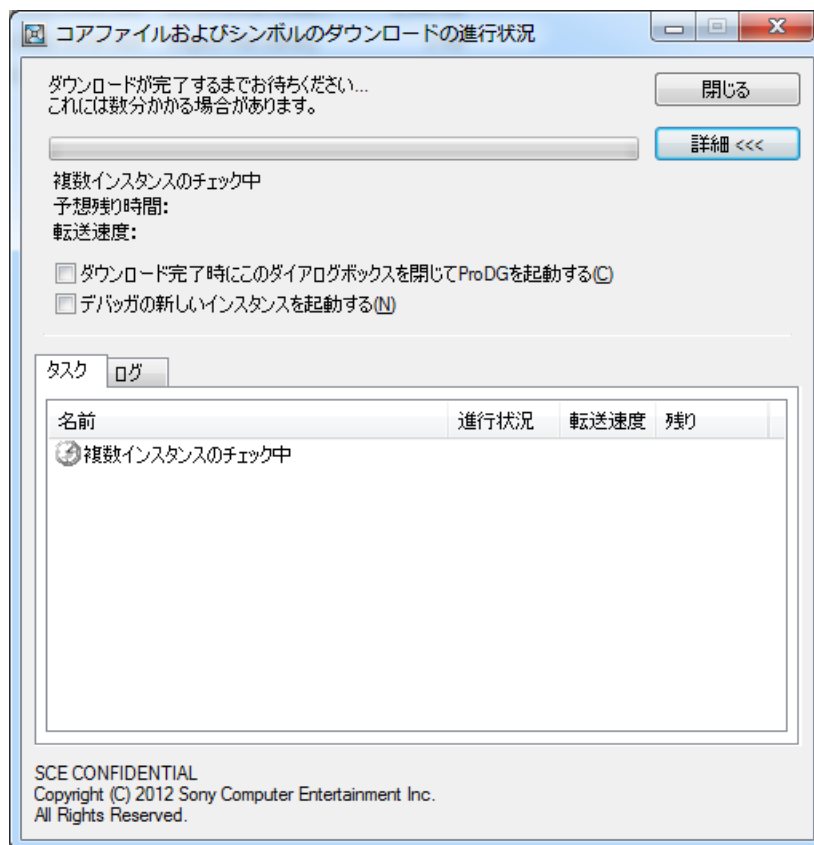
- Internet Explorer の「ツール」メニューで「インターネット オプション」をクリックします。

3 CRSダウンロードの操作

ここでは、CRS ダウンローダを使って Crash Reporting System からクラッシュデータをダウンロードし、それを ProDG デバッガを使って分析する方法について説明します。

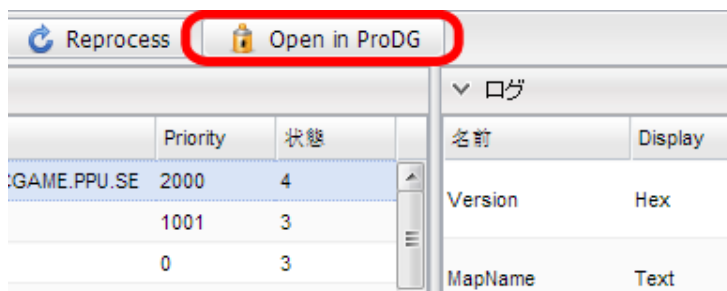
注意：一度に実行できるCRSダウンロードのインスタンスは1つだけです。あるインスタンスの実行中に2つ目のインスタンスを起動した場合、その2つ目のインスタンスには図1のようなウィンドウが表示され、他のインスタンスをすべて閉じるまで実行が先に進みません。

図 1



Crash Reporting SystemのデータをProDGデバッガで分析するには

- (1) Crash Reporting System のユーザインタフェースから、ProDG デバッガで情報を分析するクラッシュのクラッシュ表示ページに移動します。
- (2) 右上隅の「Open in ProDG」をクリックします。



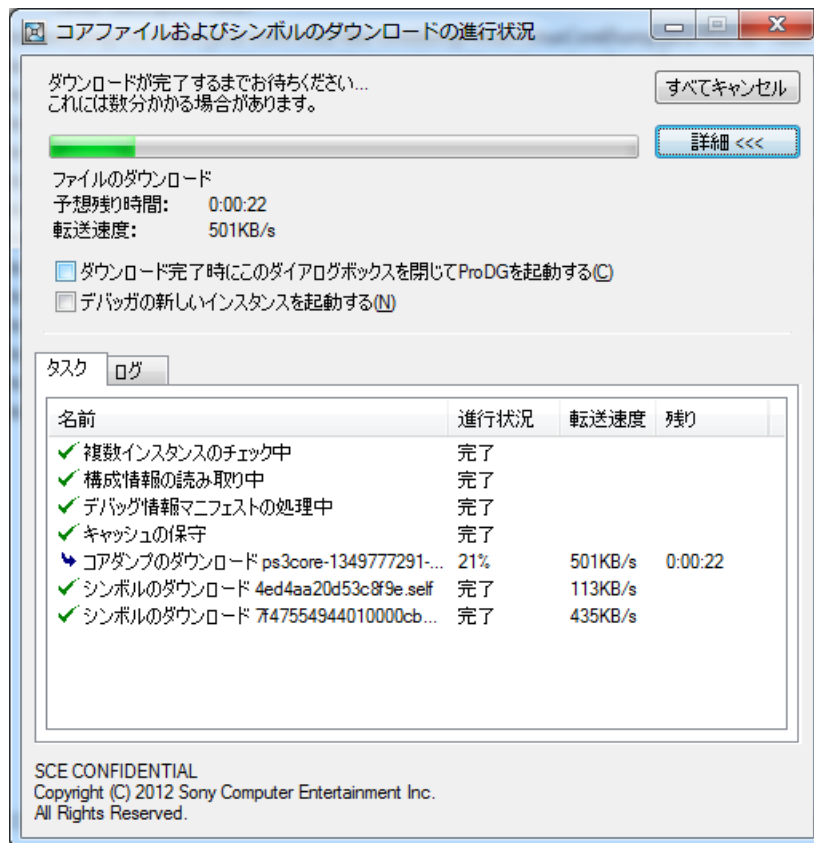
現在のクラッシュのマニフェストファイルがローカルマシンにダウンロードされます。

注意：ブラウザ内で、拡張子.crsdim のファイルが自動的に開かれるようになっているか確認してください。

- (3) CRS ダウンローダが起動され、ファイルマニフェストの処理が開始されます。

図 2 のようなウィンドウが表示されます。

図 2



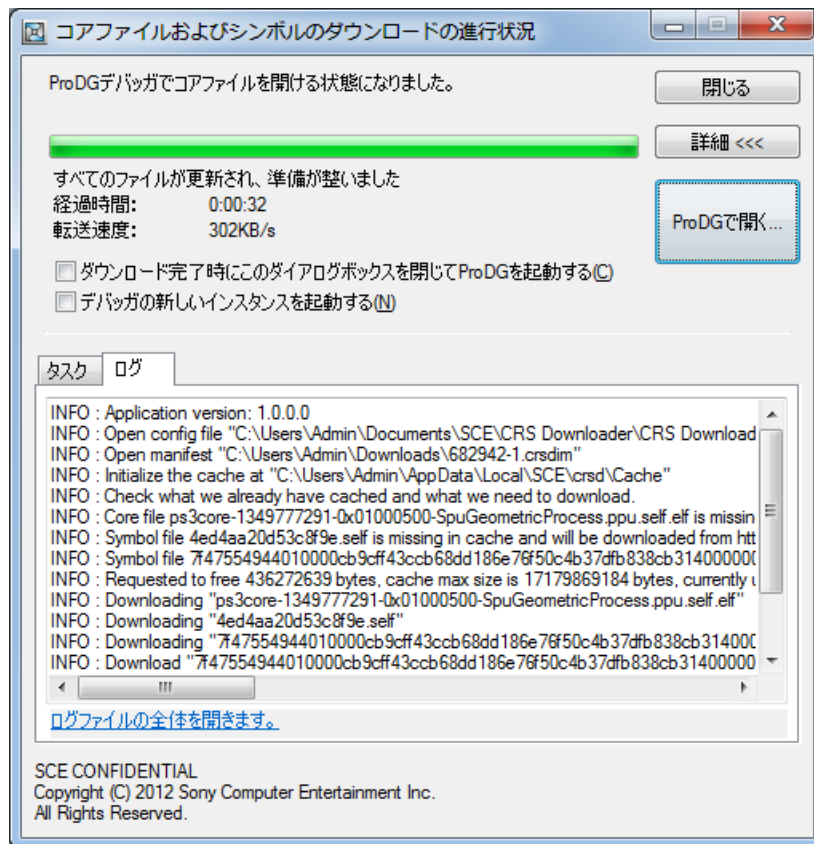
- (4) CRS ダウンローダがすべての必要なファイルの処理を終えた時点で ProDG デバッガを起動するには、「ダウンロード完了時にこのダイアログボックスを閉じて **ProDG を起動する**」を選択します。

完了時に ProDG デバッガを自動的に起動するよう選択しなかった場合、デバッガを手動で起動するには、「**ProDG で開く**」ボタンをクリックします。

- (5) このクラッシュデータセット用に新しい ProDG デバッガインスタンスを開く場合は、「**デバッガの新しいインスタンスを起動する**」を選択します。

- (6) CRSダウンローダのログ情報を表示するには、「ログ」タブをクリックします。
図3のようなタブが表示されます。

図 3



このタブには INFO（情報）レベルのログエントリだけが含まれます。ログファイル全体を表示するには、「ログファイルの全体を開きます。」をクリックします。これは、CRS Downloader.config ファイルの <Log_Path> 属性で指定されている場所のログファイルに格納されている情報と同じです。

付録A：動作の詳細

CRS ダウンローダは、ProDG デバッガと同じコンピュータ上で実行され、シンボルファイルやコアファイルのローカルキャッシュを管理します。コアファイルやシンボルファイルを Crash Reporting System サーバに要求するために必要な情報はすべて、Crash Reporting System デバッグ情報マニフェストファイル (.crsdim) に含まれています。これらのマニフェストファイルが Crash Reporting System からダウンロードされるのは、ユーザが Crash Reporting System の UI から 1 つのクラッシュを選択した後、「Open in ProDG」ボタンをクリックしたときです。そのクラッシュに関連付けられたマニフェストファイルがコンピュータにダウンロードされます。

CRS ダウンローダは、.crsdim ファイルに指定されたコアファイルと関連するすべてのシンボルファイルがローカルに存在しているか確認し、参照されているコアファイルやシンボルファイルのうち、不足しているものを Crash Reporting System から自動的にダウンロードします。シンボルファイルやコアファイルのローカルキャッシュのサイズが構成された最大サイズに達すると、古いファイルが自動的に削除されます。

ファイルのダウンロードは並列して行われます（構成された最大数までの接続を使って複数ファイルを同時にダウンロードします）。ダウンロードが中断された場合、可能であれば、CRS ダウンローダはダウンロードを再開して残りのファイルを取得するよう、ユーザに促します。

ダウンロードが完了したら、CRS ダウンローダはファイルの圧縮を解除し、ローカルキャッシュに格納されたシンボルファイルへのパスを指定する ProDG コア記述ファイルを作成します。ユーザの選択によってはその後、生成されたコア記述ファイルと対応するコアファイルを使って ProDG デバッガが自動的に起動されます。

また、CRS ダウンローダを実行するたびに 1 つのログファイルが作成されます。このログファイルは、問題のトラブルシューティングを行う必要が生じた場合に役立つ可能性があります。

付録B：ヒントやテクニック

- CRS ダウンローダでは、ダウンロードされたファイルはキャッシングされるため、複数のコアダンプで同じファイルが使用されている場合、そのファイルは一度だけダウンロードされます。すべてのコアファイルやシンボルファイルが常に Crash Reporting System からダウンロードされるようにするには、最大ローカルキャッシュサイズ（<LocalCache MaxSizeMB>）を 0 に設定します。
- ローカルキャッシュ内のファイルに直接アクセスする必要がある場合、キャッシュのパスはログファイルから得られます。
- CRS ダウンローダは、情報提供の目的でローカルキャッシュの内容をログファイルにダンプします。多数のファイルを保持するようにキャッシュが構成されていると、この処理にある程度の時間がかかる可能性があります。これが問題になる場合、キャッシュの内容のロギングを無効にするには、ログの重要度（<Severity>）を 50 に設定します。